

自己学習の定着について

- 1, 数年前から行っている勉強マラソン(生徒の学習量を把握する)には、一定の評価はできる。ただし、学習量だけでなく学習の質についても把握する必要があるのではないか。
- 2, 今年から始まる「スタディーサプリ」については、他校の実践を踏まえ、数多くの講座の中から自分に合ったものをしっかり選択させる工夫が必要になる。

英語力の向上について

- 1, 2017年から始まった「先進英語プログラム」については非常に高い評価ができる。英語で授業を行い討論をするのは、2020年から始まる新たな大学入試にも十分対応できるのではないか。
- 2, 高校1年生から必修となる「英語表現」は他校に見られない先進的な試みである。少人数のクラスで外国人教師がスピーキングからエッセイライティングまで指導するスタイルは、4技能を前提とする新入試にマッチしている。

獨協コースについて

- 1, 高大連携で卒業論文を完成させる「獨協コース」は他校に類を見ない先進的な試みである。このクラスの成果は目を見張るものがあり、外部に対して発表会等を行うべきではないか。また追跡調査を行い、彼らがどのような形で社会に貢献しているのか確認する必要があるのではないか。

ICT機器の活用について

- 1, はじめからICT教育を前提にして、機材の導入を行い失敗している学校が多い。何のためにICT教育を行うのか、そこのところをはっきりさせなくてはならない。コストに見合うような導入の仕方をすべきである。